

「人はなぜ信じるのか？」

2015年6月20日(土)

会場：妙善寺 書院 (六本木)

参加：20名

司会・文責：堀越

1. 概要：

- ・「人はなぜ信じるのか？」を問いとして、新規参加者8名を含む総勢20名で対話しました。和さろんとして、六本木にある妙善寺の書院を借りて、主に、信じるきっかけおよび信じる理由について考え、語り合いました。

2. 対話：

(0) 問いについて

- ・私達は普段様々な事柄を信じて日常生活を送っているが、「人はなぜ（それらを）信じているのか？」という問いを挙げ、考えたいと提起した。

(1) 信じていることの事例

- ・スピリチュアルな世界があると信じている。
- ・こういう場で対話できるということは、「言葉が交信に有効である」と信じているからである。
- ・通勤や私用で電車を利用する際に、網棚に荷物を置くが、目的地まで荷物が安全（＝盗まれないこと）はまずないと思う。これも信じていることにならないか。
- ・誰でも意識しているレベルで信じていることがあるのではないか。

(2) 信じるとは？

- ・「trust（＝信用する）」と「believe（＝真に受ける）」は異なる。社会生活を送る中では、信用することはあるが、真に受けることはほとんどない。
- ・何かを疑う人がいて、その根拠を言えない（説明できない）ときに、「信じる」がある。
- ・「信じる」には段階がある。最初に「納得する」段階があり、次に「信じる」段階があるのではないか。また、「信じる」には幅があるが、連続している。
- ・周りの多くの人が「信じる」と言うことで、その人は信じるようになり、確信に至るという面もある。
- ・「言葉が通じる」ことも信じることなのか。意識するかどうかは別である。日常的な出来事は無意識に、非日常的な（偶にしか起きない）出来事は意識的に、信じているのではないか？
- ・信じる対象には未知がある。そうだとすれば、「信じる」と「知る」は重複している部分があるのか。
- ・「知る」と「疑う」の関係はどうか。印象としては、知る：+1 ⇔ 知らない：0 ⇔ 疑う：-1 というように数直線上にあるのではないか。

(3) なぜ信じるのか？

- ・信じることは、選択の幅が少なくなるはずで、より不自由になるのに、なぜ信じるのか？
→完全に自由だと嫌だと思ふし、不安定で生きていけないからではないか。
- ・もっと大きな動機があるのではないか。依って立つ拠り所、心の支えがどうしても欲しくなって、その辺りから宗教が生まれる。
- ・運命的（と思えるような）出来事を意味付けたいからではないか。そう理解しないと意味付けできず、考え続けてしまうはずなので、考えなくするために、信じるのではないか？
- ・赤ちゃんは周りを全て受け入れる。大人は周りを疑う。あえて「信じる」のではなく、普通（ベース）の状態が信じるのではないか。
→赤ちゃんは周りを全て受け入れているように確かに見えるが、本当に全てを信じているのだろうか？信じてはいないのではないか？
- ・信じていることは意外に簡単に疑うことができる。「信じる」には安心感があるが、「疑う」には不安が伴う。いつも不安を抱え、いつも疑っていると大変なので、省エネのために信じるのではないか。
→信じる理由＝省エネ理論は、原因と結果の取り違いになっていないか？ 省エネのためというよりも信じる理由は安心感を得たいという動機にあるのではないか。

(4) 再び信じるとは？

- ・今までの対話での「信じる」はどうも静的に過ぎると思う。納得する→信じる→裏切られる→再び納得する→信じる、というように「信じる」という行為には（循環・反復）運動のようなものがある。だから、「信じる」はもっと意識的で動的な行為ではないか。
- ・「信じようとする（疑わない）」と「信じている」の間にも差がある。
- ・「信じる」という行為は理性の範疇か、感性か？ 理性＝論理と感性＝感情の両方が要りそうである。
→論理的な整合性があるなら「腑に落ちる」「納得する」か。意思で信じていることができるか。
- ・「信じたい」と「信じている」ではどちらが満たされているか？ 前者は未知があり不安（＝飢餓感）があるが、後者は前提があり安心でき楽しいので、「信じている」方ではないか。
- ・「信じる」は飛躍（ジャンプ）が起きて納得・安心感に達する。だから、理性＝論理ではなく、体感する（何も考えない／言葉を超える）ということではないか。
- ・「信じる」かどうかは、「信じる」状態以外に「疑う」しかないのか？ もっと幅が広いのではないか。

(5) 「自分を信じる」とは？

- ・「自分を信じる」とは「他者を信じられる」ことである。
- ・「自分が何かの行為をできるだろう」と思うことが「自分を信じる」ことである。
- ・過去（の自分）を前提として信じるのが未来（の自分）を信じることに繋がる。

3. まとめ：

- ・「なぜ信じるのか？」を考え詰めてと、「信じる」とは何か？に思考が当然及び、対話は循環して行った。対話中に挙がった「信じる」が「安心感を得る」や「省エネになる」という意味を持つという論点は、個人的に面白く、ある程度の納得ができるものであった。
- ・「自分を信じる」という論点も終盤で挙がったが残念ながら時間切れとなってしまった。次の機会に深めたい。